

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	身体障害作業療法学Ⅱ(神経筋)		
担当教員	中野 和代		
学年	3年	学科	作業
単位数	4単位	時間数	120(30)時間
授業の概要	神経筋疾患のうち、主な神経難病領域のリハビリテーションの概要について扱う。		
学習目標	評価及び治療の一連の流れを学び、日常生活活動の治療法について学ぶ。 主な神経筋障害作業療法の実践について、ケーススタディーを通じて理解を深める。		
授業計画	46. オリエンテーション 47. 前期復習(1) 48. 前期復習(2) 49. 国家試験で出題される主な神経筋障害のまとめ 50. 国家試験対策① 51. 疾患別作業療法の実践(1) 52. 疾患別作業療法の実践(2) 53. 疾患別作業療法の実践(3) 54. 疾患別作業療法の実践(4) 55. 国家試験対策② 56. 疾患別作業療法の実践(5) 57. 疾患別作業療法の実践(6) 58. 疾患別作業療法の実践(7) 59. 疾患別作業療法の実践(8) 60. 国家試験対策③		
教科書	『標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学』【編】岩崎テル子(医学書院) 『標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学』【著】能登真一(医学書院) 『ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学』【著】長崎重信(メジカルビュー社) 『神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ』【監】小森哲夫(メジカルビュー社) 『病気がみえる〈vol.7〉脳・神経』【編】医療情報科学研究所(メディックメディア)		
参考書	『ベッドサイドの神経の診かた』【著】田崎義昭(南山堂) 『系統理学療法学 神経障害系理学療法学』【編】丸山仁司(医歯薬出版)		
評価方法	出席状況・期末試験により総合的に評価する。		
備考	臨床評価実習で得た経験をもとに、ケーススタディの症例について、具体的に考える姿勢を養おう。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	身体障害作業療法学Ⅱ(脳血管)		
担当教員	江草 俊樹		
学年	3年	学科	作業
単位数	4単位	時間数	120(30)時間
授業の概要	本授業では、脳血管障害における高次脳機能障害や生活行為の障害に焦点を当てた作業療法を深く学びます。神経科学の知見に基づき、注意障害、半側空間無視、失行症など、特有の症状に対する評価法と治療介入法を実践的に習得します。これにより、単なる機能回復を超え、対象者が主体的に意味のある作業に取り組めるよう支援する、より専門的なアプローチの基盤を養います。		
学習目標	脳血管障害を中心に、中枢疾患についてクライアントの作業療法の実際を学ぶ。評価及び治療の一連の流れを学び、日常生活活動の治療法について学ぶ。 到達目標: 評価から治療を紐づけて考えられる。治療を学生同士で習得する。		
授業計画	16. 前期振り返り、オリエンテーション 17. 身体機能訓練(上肢・手指など) 18. 身体機能訓練(上肢・手指など) 19. 身体機能訓練(上肢・手指など) 20. ADL 21. ADL 22. ADL 23. IADL、生活上の行為 24. IADL、生活上の行為 25. 高次脳機能障害 26. 高次脳機能障害 27. 高次脳機能障害 28. 高次脳機能障害 29. 高次脳機能障害 30. まとめ 国試対策		
教科書	『標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学』【編】岩崎テル子 (医学書院) 『標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学』【著】能登真一 (医学書院) 『ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学』【著】長崎重信 (メジカルビュー) 『神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ』【監】小森哲夫(メジカルビュー社) 『病気がみえる〈vol.7〉脳・神経』【編】医療情報科学研究所 (メディックメディア)		
参考書	随時		
評価方法	授業態度、課題への取り組み、出席状況、期末試験などを含め、総合的に評価する。		
備考	実技練習を行う際には教室が変更になることがあります。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	精神障害作業療法Ⅱ		
担当教員	沖辺 裕樹		
学年	3年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	本授業では、精神障害作業療法学Ⅰで学んだ基礎を踏まえ、より実践的な知識と応用力を養います。精神疾患に対する作業療法の評価や介入方法を事例を交えて学び、臨床現場での支援の展開を理解します。さらに、地域生活支援やリハビリテーションの実際、多職種連携の重要性について考察し、患者の社会参加を促進するための専門的視点を培います。		
学習目標	精神科作業療法治療学の基礎となる治療構造について学ぶ。 また、疾患別作業療法として統合失調症の病理と成因、行動の特徴、治療構造を理解する。主な精神疾患の病理と成因、行動の特徴、作業療法の治療構造について理解する。		
授業計画	16. 治療過程と治療構造～治療的態度と関わり方～ 17. 治療・援助構造①作業活動 18. 治療・援助構造②治療的集団 19. 治療・援助構造③時間・頻度・場所 20. 地域生活支援と就労支援 21. 福祉制度と関連法規 22. 統合失調症① 23. 統合失調症② 24. 気分障害① 25. 気分障害② 26. パーソナリティ障害 27. 不安障害と神経症① 28. 不安障害と神経症② 29. 依存症 30. てんかん		
教科書	『はじめての精神科作業療法』【著】山口芳文・渡辺雅幸（中外医学社） 『標準精神医学』【著】尾崎紀夫(医学書院)		
参考書			
評価方法	期末テスト		
備考			

開講年度	令和7年度	開講期間	通年（後期）
科目名	内部障害作業療法		
担当教員	滝川 忠喜		
学年	3年	学科	作業
単位数	3単位	時間数	90(60)時間
授業の概要	内部障害に対する作業療法について、国家試験レベルで学習する。		
学習目標	主な内部障害の基礎とリハビリテーションを概説する。 特に臨床現場で遭遇する呼吸・循環・代謝障害に限定して通年で講義を展開する。内部障害の病態・治療・予後などについて理解し、臨床場面でのリハビリテーションの方針やリスク管理を学習する。最終的に動作方法の工夫や指導、環境調整などを行い、どうすれば生活の再構築ができるのかを学び、自ら思考できるようにする。		
授業計画	16. 循環器系の構造と機能① 17. 循環器系の構造と機能② 18. 心電図① 19. 心電図② 20. 心電図③ 21. 心電図④ 22. 心不全 23. 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞） 24. その他心疾患 25. 心臓リハビリテーション 26. 心臓リハビリテーション 27. 心臓リハビリテーション 28. 心臓リハビリテーション 29. 心臓リハビリテーション 30. 心臓リハビリテーション 31. 呼吸リハビリテーション 32. 呼吸リハビリテーション 33. 呼吸リハビリテーション 34. 呼吸リハビリテーション 35. 呼吸リハビリテーション 36. 呼吸リハビリテーション 37. 呼吸リハビリテーション 38. 呼吸リハビリテーション 39. 呼吸リハビリテーション 40. 呼吸リハビリテーション 41. 呼吸リハビリテーション 42. 呼吸リハビリテーション 43. 呼吸リハビリテーション 44. 呼吸リハビリテーション 45. まとめ		
教科書	『内部障害のリハビリテーション』【編】上月 正博（医歯薬出版）		
参考書	随時		
評価方法	試験（前期試験と後期試験の合算で判定）、出席状況、授業態度		
備考			

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	高齢期障害作業療法		
担当教員	片山 利久		
学年	3年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	高齢者に多い疾患について学び、理解を深める 認知症の理解を深める		
学習目標	前期の座学や短期実習を踏まえ、長期実習へ向けて、認知症を中心に実践的なノウハウを身につけ、高齢期の作業療法に積極的に取り組んでいく姿勢を身に付けていく。		
授業計画	16. 高齢者に多い疾患① 17. 高齢者に多い疾患② 18. 高齢者に多い疾患③ 19. 認知症について 20. 日常生活の中での認知症状の理解と対応① 21. 日常生活の中での認知症状の理解と対応② 22. 認知症の作業療法(脳の活性化)① 23. 認知症の作業療法(脳の活性化)② 24. 認知症の作業療法(脳の活性化)③ 25. 介護予防と作業療法(士) 26. オレンジプランと新オレンジプラン 27. 認知症初期集中支援チームと成年後見制度ほか 28. 事例検討① 29. 事例検討② 30. 国試対策		
教科書	『認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント』【著】山口晴保（共同医書出版） 『標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学』【監】松房利憲（医学書院）		
参考書	認知症をもつ人への作業療法アプローチ【監】宮口英樹 メジカルビュー社 認知症のある人への作業療法【編集】浅井憲義・大熊明 中央法規		
評価方法	授業態度、出席状況、期末試験などを含め、総合的に評価する。		
備考	国家試験を交えながら実施していく。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	日常生活活動学		
担当教員	江草 俊樹		
学年	3年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	本授業では、人間が日常生活で営むさまざまな活動、すなわち日常生活活動(ADL)について、作業療法の観点から深く学びます。食事、更衣、入浴といった基本的なADLから、IADL(手段的ADL)までを網羅し、その評価法や援助方法を学習。障害を持つ人々が主体的に生活を再構築できるよう、対象者のADL的な課題を分析し、作業療法士としてどう支援していくかを考える力を養います。		
学習目標	ADLの基本的知識の整理を通して、具体的な評価・支援方法などについて理解を深めることを目標としている。		
授業計画	16. オリエンテーション、コミュニケーションエイド 17. 住環境 18. 住環境 19. 摂食嚥下(看護学科 守屋先生) 20. 摂食嚥下(看護学科 守屋先生) 21. 排泄、ベッド周囲環境整備(看護学科 友野先生) 22. 排泄、ベッド周囲環境整備(看護学科 友野先生) 23. 関節リウマチにおけるADL訓練 24. 関節リウマチにおけるADL訓練 25. 脊髄損傷におけるADL訓練 26. 脊髄損傷におけるADL訓練 27. 脊髄損傷におけるADL訓練 28. 筋萎縮性疾患におけるADL訓練 29. 筋萎縮性疾患におけるADL訓練 30. 脳性麻痺におけるADL訓練		
教科書	『標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学』 【編】濱口豊太(医学書院) 『作業療法学全書 第10巻 作業技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備』 【著】木之瀬隆(協同医書出版) 『嚥下障害ポケットマニュアル』 【執筆】聖隷嚥下チーム(医歯薬出版)		
参考書	同上		
評価方法	課題・期末試験・課題学習・グループワーク・出席状況による総合評価		
備考			

開講年度	令和7年度	開講期間	通年（後期）
科目名	地域作業療法学Ⅰ		
担当教員	佐近 隆二		
学年	3年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	本授業では、地域作業療法学の基礎をに学びます。地域における作業療法の役割や対象者の生活支援、健康増進や予防活動の重要性について理解を深めます。高齢者や障害を持つ方々が住み慣れた地域で自立した生活を送るための支援方法を事例とともに学び、地域包括ケアや多職種連携の視点を養います。作業療法士として地域社会で求められる基盤的知識の習得を目指します。		
学習目標	・地域で生活する障害者に関する文献の抄読とディスカッションを通して、地域作業療法の現状と課題についての見識を深める。 ・前期に学んだ基礎事項と文献を照らし合わせ、これからの地域作業療法の可能性について考える視点を持つことができるようになる。 ・看護学科と合同で多職種連携の演習を行う。		
授業計画	16. 自動車運転支援 17. 多職種連携教育・自動車運転支援 18. 多職種連携教育 19. 多職種連携教育 20. 自動車運転支援 21. 自動車運転支援 22. 多職種連携教育 23. 多職種連携教育 24. 多職種連携教育 25. 就労支援 26. 就労支援 27. 就労支援 28. 就労支援 29. 就労支援 30. まとめ		
	講義		
	演習		
	お互いの職種を知ろう OT編		
	お互いの職種を知ろう NS編		
	グループ発表		
	グループ発表		
	事例検討1		
	事例検討2		
	特別講義		
	講義		
	特別講義		
	演習		
	グループ発表		
	グループ発表		
教科書	『作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 地域作業療法学』【著】徳永千尋他(メジカルビュー社)		
参考書	『作業療法』（日本作業療法士協会） 『作業療法ジャーナル』（三輪書店） 『臨床作業療法学』（青海社）などの図書館雑誌		
評価方法	課題・期末試験・課題学習・グループワーク・出席状況による総合評価		
備考	作業療法の文献を読むことを通じて、地域で働く作業療法士の取り組みを理解すること、及び、問題意識を持って自主的に考える姿勢を習得しよう。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	地域作業療法学Ⅱ		
担当教員	中野 和代 ・ 熊野 巴之 ・ 片山 利久		
学年	3年	学科	作業
単位数	4単位	時間数	120(60)時間
授業の概要	前期に引き続き、地域支援対象者とのかかわりを通して対象者の生活における制限を軽減し、かつ、社会性を高めるためのプログラムを立案・実施する。		
学習目標	演習を通して、対象者との治療関係づくり、適切な評価・測定の実施、治療の実施、再評価、プログラムの変更まで、一連の流れを計画的に実施できるようになることを目指す。		
授業計画	31. 演習準備 32. 地域支援対象者とのかかわり演習 33. 地域支援対象者とのかかわり演習 34. 地域支援対象者とのかかわり演習 35. 地域支援対象者とのかかわり演習 36. 地域支援対象者とのかかわり演習 37. 地域支援対象者とのかかわり演習 38. 地域支援対象者とのかかわり演習 39. 地域支援対象者とのかかわり演習 40. 地域支援対象者とのかかわり演習 41. 地域支援対象者とのかかわり演習 42. 地域支援対象者とのかかわり演習 43. 地域支援対象者とのかかわり演習 44. 地域支援対象者とのかかわり演習 45. 地域支援対象者とのかかわり演習 46. 地域支援対象者とのかかわり演習 47. 地域支援対象者とのかかわり演習 48. 地域支援対象者とのかかわり演習 49. 地域支援対象者とのかかわり演習 50. 地域支援対象者とのかかわり演習 51. 地域支援対象者とのかかわり演習 52. 地域支援対象者とのかかわり演習 53. 地域支援対象者とのかかわり演習 54. 地域支援対象者とのかかわり演習 55. 地域支援対象者とのかかわり演習 56. 地域支援対象者とのかかわり演習 57. 地域支援対象者とのかかわり演習 58. 地域支援対象者とのかかわり演習 59. 地域支援対象者とのかかわり演習 60. 演習の振り返り		
教科書	『標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学』【著】矢谷令子（医学書院）		
参考書	図書館蔵書のジャーナル類		
評価方法	実習態度・レポート等、前期成績との総合評価とする。		
備考	外部施設での実習と。校内での実習準備等。評価道具使用の事前申請必須。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	総合臨床実習Ⅱ（OSCE）		
担当教員	片山 利久 熊野 巴之 中野 和代		
学年	3年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	60時間
授業の概要	臨床評価実習、及び、総合臨床実習の症例をもとに、全体像の把握、目標設定、治療プログラム立案までの流れを書面上でまとめる。さらに、症例検討会で発表し、修正プログラム再検討を繰り返し、症例報告書として精査していく。		
学習目標	臨床実習で必要となる基本的臨床技能について、résuméの精査を通して理解し、次年度履修の総合臨床実習の基礎的思考過程を習得する。		
授業計画	31. オリエンテーション 32. レジメ作成・発表 33. レジメ作成・発表 34. レジメ作成・発表 35. レジメ作成・発表 36. レジメ作成・発表 37. レジメ作成・発表 38. レジメ作成・発表 39. レジメ作成・発表 40. レジメ作成・発表 41. レジメ作成・発表 42. レジメ作成・発表 43. レジメ作成・発表 44. レジメ作成・発表 45. レジメ作成・発表 46. レジメ作成・発表 47. レジメ作成・発表 48. レジメ作成・発表 49. レジメ作成・発表 50. レジメ作成・発表 51. レジメ作成・発表 52. レジメ作成・発表 53. レジメ作成・発表 54. レジメ作成・発表 55. レジメ作成・発表 56. レジメ作成・発表 57. レジメ作成・発表 58. レジメ作成・発表 59. レジメ作成・発表 60. レジメ作成・発表		
教科書	プリント配布		
参考書	随時紹介		
評価方法	実技試験を2回実施し、平均した点を評点とする。または、レジユメ作成・発表内容によって、評価する。		
備考			

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	作業療法国家試験演習Ⅱ		
担当教員	滝川 忠喜		
学年	3年	学科	作業
単位数	5単位	時間数	150(90)時間
授業の概要	国家試験受験のための基礎的知識の学習。		
学習目標	国家試験過去問題の解説ノート作成を通じて、基礎医学分野についての理解を深める。		
授業計画	31. 肩甲帯・肩関節の運動学 32. 肘関節・手関節・手指の運動学 33. 股関節の運動学 34. 足関節の運動学 35. 膝関節・体幹頸部の運動学 36. 姿勢と歩行 37. 胃の構造と機能 38. 小腸・大腸の構造と機能 39. 肝臓の構造と機能 40. 膵臓・胆嚢の構造と機能 41. Phと酸塩基平衡 42. 腎臓の構造と機能 43. 肺の構造と機能およびガス分圧 44. 血液・リンパ・免疫 45. 内分泌系の機能 46. 統合失調症① 47. 統合失調症② 48. 統合失調症③ 49. 統合失調症④ 50. 統合失調症⑤ 51. 統合失調症⑥ 52. 気分(感情)障害① 53. 気分(感情)障害② 46. 気分(感情)障害③ 47. 中毒 48. 薬物療法 49. てんかん 50. 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害① 51. 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害② 52. 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害③ 53. アルコール依存症① 54. アルコール依存症② 55. アルコール依存症③ 56. パーソナリティー障害① 57. パーソナリティー障害② 58. パーソナリティー障害③ 59. パーソナリティー障害④ 60. 自閉症① 61. 自閉症② 62. アスペルガー症候群 63. ADHD/LD 64. 知的障害 65. まとめ① 66. まとめ② 67. まとめ③		
教科書	使用しない		
参考書	『病気がみえる<vol.7>脳・神経』【著】医療情報科学研究所（メディックメディア） 『発達障害と作業療法(実践編)』【著】岩崎清隆 他（三輪書店） 『写真で見る 乳児の運動発達 生後10日から12ヶ月まで』【著】Lois Bly（協同医書出版） 『作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト7 発達障害作業療法学』【編】神作一実（メジカルビュー社） 『シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト』【著】田原弘幸、大城昌平（南江堂）		
評価方法	国家試験形式による筆記試験		
備考			